巻頭言

# 日蓮宗教化学の研究を

石川教張
（現代宗教研究所所長）

ある大手情報会社のイメージ調査によれば、〈キリスト教は、教会―牧師―讃美歌―結婚式―生―明。仏教は、寺―僧―お経―葬式―死―暗〉を連想するという。

この連想は、表相的な感じ方かもしれないが、社会一般の見方、受け取り方を象徴的に示したものと言えるように思う。

少くとも、仏教が死者や死とかかわる時に強く意識され、通常の社会や日常生活ではきわめて疎遠で影の薄い、現実から浮いた存在と見做されているのはたしかであろう。

仏教―この場合、前近代に成立したいわゆる既成仏教が「葬式仏教」と評されてきた如く、死者儀礼や先祖供養を主要とした宗教行為にスタンスを据え続けて来てから久しい。近世の幕藩体制下で形成された制度、機構と宗教行為を維持、存続させながら時代の変容に即応したり追随して来たのが仏教集団の動向であったと言えよう。

その意味では、個々の側面はともかく主要な点に関しては仏教の近代史はあったが、仏教の近代化はなかったと指摘する事も可能である。

そのため、仏教は依然として「死者の宗教儀礼」というイメージと体質から脱皮し得ていない。勿論、先祖供養・

死者儀礼は重要な宗教行為である。しかし、これすら「仏作って魂入れず」の形骸化情況にあり、供養・回向及び葬送儀礼の信仰的意味づけを蘇生させ今日的内容をあらたに再形成せねばならなくなっている。何よりも、死者供養が亡き人はもとより生者の安心や救いと結び合っているものとして営まれていかねばならないだろう。

「死者の宗教」だけでなく「生者の宗教」を、という課題は、これまでの歴史の重さを背負っていかねばならない既成仏教集団の当面の基本テーマである。それは、生者、死者、山川草木など一切衆生を導く仏教の人生観、世界観や法華経の救済観、日蓮聖人の立正安国観をこの現実の問題情況で提示、活現するべき筈の日蓮宗の避けて通れぬ命題でもある。この「生者の宗教」への実践によって、単なるイメージの変化に止まらず、仏教集団としての近代化、現代化の一歩が開拓され、現代の「日蓮一門」という信仰共同体が再生するとき、日蓮宗は現代に存在する意味と役割を初めて持ち得るにちがいない。

今日の日蓮宗は、「宗門」であっても「教団」ではない。「仏経と行者と檀那と三事相応して一事を成ぜん」（問註得意抄　昭和定本四三九頁）という内実をそなえ、信仰的に連帯して立正安国の実践、専持題目の信行活動に励む「日蓮一門」となり通し、法華の宗旨を宣揚すべき「教団」としての日蓮宗が再生されなければならない。

こうした目標を実現するためには、多くのハードルを超えて行かねばならない。信心の目的と衆生救済とは何か、寺はどうあるべきか、僧のありようは何か、教化のあり方と方策は何か。日蓮宗はいかなる社会的役割を果たし、何を建言し得るのか、信行、教義、教育から社会実践に至る数々の課題にアプローチし、現実を率直に自己批判し洗い直し、「生者の宗教」と「死者の宗教」を共に果たし得る信仰的で社会に開かれた教団形成に取り組むことが、二十世紀末の日蓮宗の直面しているテーマであろう。

私はかねがね、「日蓮一門」づくりのための教化学の研究と確立を主張して来たが、信行論、寺院論、僧侶論、教団論、教育論、教化論など、多面的な省察が必要となろう。

今日、教学と宗学の概念は論者によってまちまちであり、定義も確定しているとは言えず、日常の社会生活に指針を与えるものになっていないと評する向きもある。一応、私は教学とは日蓮聖人の信解体得された教説の信仰的学の体系、宗学は日蓮聖人滅後の門流、法華集団としての日蓮宗の形成と変遷過程に示された宗義体系とし、その日蓮聖人の学と日蓮宗の学を土台にして、時代的、歴史的情況と結びあいつつ教化の理念と実践内容を研究、習得、活現する学を日蓮宗教化学と規定しておきたい。

私たちは、日蓮聖人の示された「弘法の用心」としての五義の証明化と言い換えてもよい。教説の活現（教）、信仰を相続し担い手を育てる教育（機）、時代的教化（時）、国家社会の立正安国化と教団形成（国）、それらを担い弘通する実践とその推進者としての教師（師）の五つの「教」にもとづき、教団論を軸とした先述の教化学の各テーマを考究する日蓮宗教化学の研究に取り組む必要があるのではなかろうか。

語弊を恐れずに言えば、日蓮宗は本来題目宗であり、題目というセールスポイントがある筈であり、題目を弘める教化戦略を持つべきなのである。教化戦略に必要な4Ｐ―プレゼンテーション（表現）、パフォーマンス（動態）、プロフェッショナル（専門性）、フィロソフィ（理念、教説）を基準に、五つの「教」を具現化、理念化し、時代の要請と人々のニーズに応える教化のあり方、方策、活動目標をまとめ、教化各分野の専門研究を通して、〝教化する〟中味を表現し行動する、現代の日蓮宗教化学の研究と体系化が大事ではないかと考えている。